

令和4年度病害虫発生予察予報2号(5月)

令和4年5月10日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生面積(地域名)
水稻	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(県下全域)</u>
かんきつ類	黒点病 カメムシ類	<u>やや多(県下全域)</u> <u>多(東、中西、西)、</u> 平年並(中央)
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(県下全域)</u> <u>多(中央)、</u> <u>やや多(中西、西)</u> <u>多(県下全域)</u> <u>多(中央、中西)、</u> 平年並(西) <u>多(中央、西)、</u> 平年並(中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ	<u>多(県下全域)</u> <u>多(西)、</u> <u>やや多(東、中央)</u> <u>多(西)、</u> <u>やや多(東、中央)</u> <u>多(中央、西)、</u> <u>やや多(東)</u>
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>多(県下全域)</u> <u>多(東)、</u> <u>やや多(中央、中西)</u> <u>多(東、中央)、</u> <u>やや多(中西)</u> <u>多(中西)、</u> <u>やや多(中央)、</u> <u>やや少(東)</u> <u>やや多(中央)、</u> <u>やや少(中西)、</u> <u>少(東)</u> <u>多(東、中央)、</u> <u>やや多(中西)</u>
促成トマト	葉かび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れていきます

I 気象予報（高松地方気象台 5 月 5 日発表）

5 月 7 日から 6 月 6 日までの天候見通し

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 40% です。

週別の気温は、1 週目は、平年並または高い確率ともに 40% です。2 週目は、平年並の確率 50% です。3～4 週目は、平年並の確率 40% です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	40	20

< 気温経過の各階級の確率 (%) >

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	20	40	40
2 週目		30	50	20
3～4 週目		30	40	30

< 予報の対象期間 >

1 ヶ月：5 月 7 日（土）～6 月 6 日（月）

1 週目：5 月 7 日（土）～5 月 13 日（金）

2 週目：5 月 14 日（土）～5 月 20 日（金）

3～4 週目：5 月 21 日（土）～6 月 3 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻の病虫害

1) イネミズゾウムシ

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

(1) 南国市の防除適期決定ほでは 4 月中旬から、四万十市では 4 月下旬から発生が見られている。5 月の気温は高いと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 箱処理剤を施用していないほ場で発生が多い場合は、本田防除を行う。

2) スクミリンゴガイ

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

(1) 2 月の気温が平年に比べて低く推移したことから、越冬貝の死亡率は平年に比べ

て高かったと考えられる。しかし、昨年の発生面積は並～多、発生程度もやや高かったことから、発生はやや多くなると予想される。

(2) 5月の気温は高いと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、高密度の場合は薬剤防除を行う。

2 かんきつ類の病害虫

1) 黒点病

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

(1) 前年の調査ではほとんどのほ場で発生が見られたこと、また5月の降水量は平年並か多いと予想されていることから、平年に比べてやや多い発生になると考えられる。

対 策

(1) 感染は、枯れ枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、落弁期以降、200～250mmの降水量を目処に薬剤防除を行う。

2) カメモシ類

発生量：多（東部、中西部、西部）、平年並（中央部）

根 拠

(1) フェロモントラップ調査（安芸市、香美市、須崎市、四万十市）では、4月下旬に安芸市、須崎市、四万十市で平年より多めの誘殺が見られた。

(2) 昨年の発生量が多かった須崎市、四万十市では、越冬量が多かったと考えられる。

対 策

(1) 花、幼果を吸汁されると結実不良、落果の被害がでるため、ほ場での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 促成キュウリの病害虫

1) ベと病

発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 4月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部、西部でやや多かった。発病程度はいずれの地域とも平年よりも高かった。

(2) 5月は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されているため、病勢は更に進展し、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量：多（中央部）、やや多（中西部、西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部でやや多く、中西部、西部では平年並であった。発病程度は県西部で平年よりも高く、中央部、中西部でやや高かった。
- (2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年より高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部、西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発病程度は県中央部で平年よりも高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 既発ほ場で発生が増加した。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生面積は、県中央部と中西部で平年よりも多く、西部でやや少なかった。
- (3) 気温の上昇にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。罹病株は早期に除去し、土中に埋めるなどの処分を行うとともに、栽培の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量：多（中央部、中西部）、平年並（西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部と中西部で平年よりも多く、西部ではやや少なかった。発生程度はいずれの地域とも平年並以下であった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、栽培の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

5) タバココナジラミ

発生量：多（中央部、西部）、平年並（中西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多、中西部ではやや少なかった。発生程度は県中央部で平年よりも高く、中西部と西部では平年並であった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。

4 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域とも平年よりも多かった。発病程度は県東部と西部で平年よりも高く、中央部では低かった。

(2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年より高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量：多（西部）、やや多（東部、中央部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりもやや多く、東部と中央部で平年並であった。発病程度は県中央部で平年よりもやや低く、その他の地域では低かった。

(2) 5月は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

発生量：多（西部）、やや多（東部、中央部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、その他の地域では平年並であった。発病程度は県中央部と西部で平年並、東部で平年よりもやや低かった。

(2) 5月は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：多（中央部、西部）、やや多（東部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、東部で平年並であった。発生程度は県西部で平年よりも高く、その他の地域は低かった。

(2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増

加すると考えられる。タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では増殖が軽減されると考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域とも平年よりも多かった。発病程度は県中西部で平年よりも高かったが、その他の地域では平年並であった。

(2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年より高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量：多（東部）、やや多（中央部、中西部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部、中西部で平年並であった。また、発病程度は県中央部で平年よりやや低く、その他の地域では低かった。

(2) 5月は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

発生量：多（東部、中央部）、やや多（中西部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部と中央部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発病程度は県東部と中央部で高く、中西部でやや高かった。

(2) 5月は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で多く、中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は県中央部と中西部で平年よりも高く、東部で低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では増殖が軽減されると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量：やや多（中央部）、やや少（中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られた。発生面積は中央部で平年並、中西部で平年よりも少なかった。発生程度は中央部で平年並、中西部で平年よりも低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では増殖が軽減されると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量：多（東部、中央部）、やや多（中西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、中央部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発生程度は県東部、中央部で平年よりも高く、中西部では低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) うどんこ病

発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は低かった。
- (2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年より高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性（葉裏に発生する）と外部寄生性（葉表に発生する）の2種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

3) 黄化葉巻病

発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、既発ほ場だけでなく新たなほ場でも発生が見られた。発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。
- (2) 気温の上昇にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖に好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株は可能な限りほ場外に持ち出し、土中に埋めるなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は低かった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。また、栽培終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.